



整形外科回診をするEl Mekaty医師  
(右から3番目)

## 念蘭製鉄 最新鋭の脊椎脊髄センター

製鉄室 海外から専門研修医増加

室蘭市の製鉄記念室蘭病院(松木高雪理事長、前田征洋院長・347床)は、東北・北海道で初導入した術中可動式CTとナビゲーション機器を駆使した最新鋭の手術施設を備えた脊椎脊髄センター(センター長＝小谷善久副院长)を運営。国内だけでなく、海外からも医師が訪れ、最新技術を学んでいる。

外国人医師は2013

年度に来院した香港Princess Margaret病院のWong医師、6月まで学んでいたマレーシア大学サラワク病院のHan Boon Beng医師に続き、現在はヒュートンタ大学病院のMohammed El Mekaty医師が1年間の予定で臨床研修を行っている。El Mekaty医師は低侵襲脊椎手術手技による脊柱変形や腰椎変性疾

患の治療成績を小谷副院长の論文やインターネット等の学術情報で知り、直接研修を依頼。同病院は外国人が特例として医療行為ができる厚生労働省の指定病院になっていることから、実際の手術に参加して手技経験を重ね、臨床研究から論文執筆もしている。

小谷副院长は日本MIST研究会世話人、北海道MIST研究会代表世話人を務めている。海外での講演や学術交流を積極的に行っていることが、外国人医師の受け入れや、院内スタッフのモチベーション、技術アップに結び付いている。